



はなむけ
餞



はなむけ
花筏



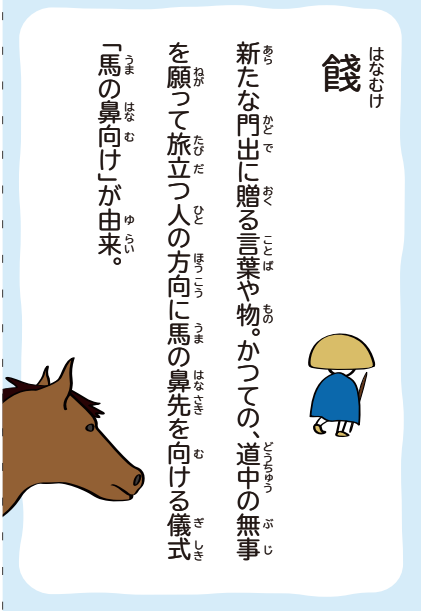
かけがえのない



しおひ
潮時

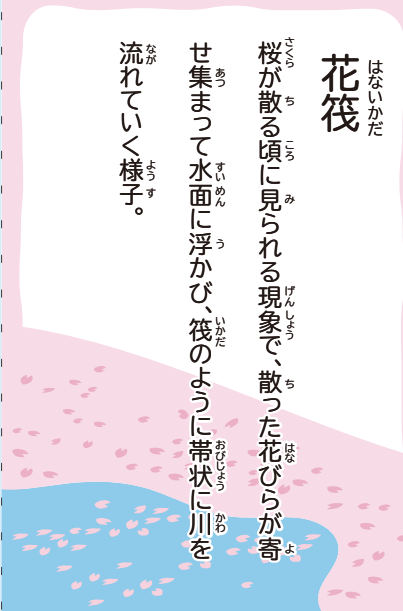


きんせん
琴線に触れる



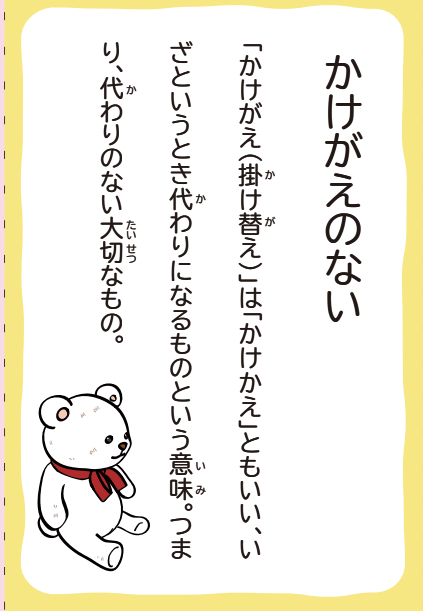
はなむけ
餞

あらたな門出に贈る言葉や物。かつての、道中の無事を願って旅立つ人の方向に馬の鼻先を向ける儀式「馬の鼻向け」が由来。



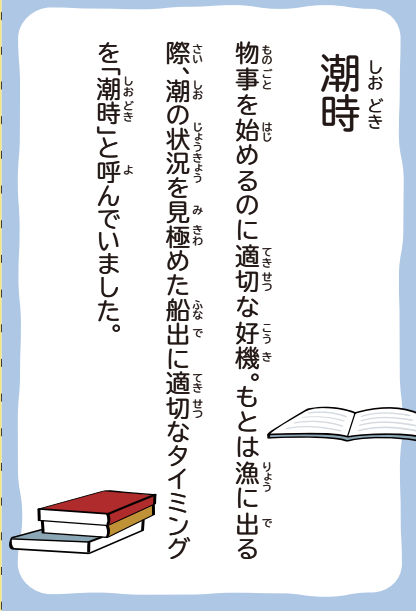
はなむけ
花筏

桜が散る頃に見られる現象で、散った花びらが寄せ集まって水面に浮かび、筏のように带状に川を流れていく様子。



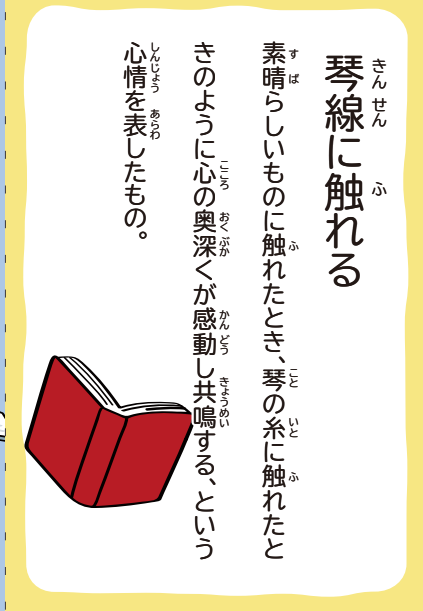
かけがえのない

「かけがえ(掛け替え)」「は」「かけがえ」ともいいいぞと、いつとき代わりになるものという意味。つまり、代わりのない大切なもの。



しおひ
潮時

物事を始めるのに適切な好機。もとは漁に出る際、潮の状況を見極めた船出に適切なタイミングを「潮時」と呼んでいました。



きんせん
琴線に触れる

素晴らしいものに触れたとき、琴の糸に触れたとさのように心の奥深くが感動し共鳴する、という心情を表したもの。